西東京市市民協働推進センター

第 2 回市民シンポジウム報告書

(平成 22 年 8 月 28 日開催)

平成 22 年 9 月 20 日作成

項　目

1.　チラシ

2.　開催概要

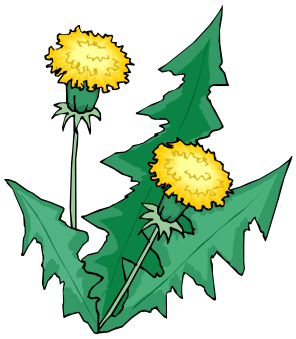
3.　パネリスト発言要旨

4.　団体発言要旨

5.　写真

ゆめこらぼ主催　第2回市民シンポジウム

＝環境に配慮したまちづくり＝



西東京のまちづくり

身近な環境を見直して！！

旧東大農場での植相調査（東大農場･演習林の存続を願う会）

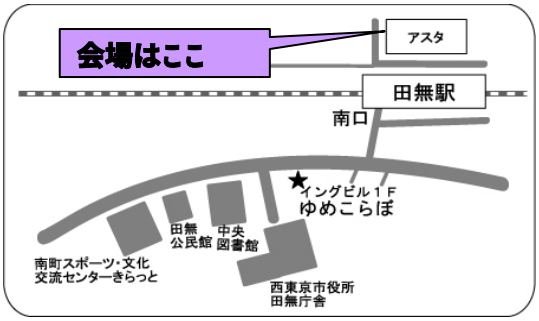
石神井川の清掃活動（ＭｅＣ 西東京）

8月２８日（土）１３：００～１６：２０
アスタセンターコート２Ｆ（西武新宿線田無駅北口）

第１部　基調講演「企業の環境保全活動～地域との協働をめざして～」
岸正之さん（損保ジャパン事務本部「ちきゅうくらぶ」）

第２部　シンポジウム「環境に配慮した西東京のまちづくり」
・パネリスト　末光正忠さん　（MeC 西東京）
豊永ひとみさん（キラキラ西東京）
中村賢司さん　（西東京自然を見つめる会）
宮﨑啓子さん　（東大農場・演習林の存続を願う会）
・コメンテーター　岸正之さん

第３部　市内活動団体からのアピール（7 団体）



****

■問い合わせ先
・西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ
電話 042-497-6950　FAX 042-497-6951　（火曜休み）
メール　yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
・西東京市協働コミュニティ課　電話 042-438-4046

****

２０１０・０７・２８

「第２回市民シンポジウム」開催概要

１　市民シンポジウム
（１）名　称：　「第２回市民シンポジウム」＝環境に配慮したまちづくり＝
（２）日　時：　平成 22 年８月 28 日（土）13 時～16 時 20 分
（３）場　所：　アスタ２階のセンターコート
（４）趣　旨：　地球温暖化問題に対する関心の高まりを背景に、「環境」に配慮した「まちづくり」を共通テーマとするシンポジウムを開催する。

グローバルな課題でもある「環境」を、例えば旧東大農場や石神井川などへの関わりなど、具体的に「地域で何ができるか」といった視点から捉えて、西東京市の「まちづくり」を見つめ直し、語り合い、さらには地域のなかで「協働」を模索するシンポジウムとしたい。

併せて、この市民シンポジウムに参加する団体にとっては、「環境」に配慮した「まちづくり」に向けた日頃の活動を多くの市民の方々に発表できる場とする。

２　プログラム概要
（１）全体構成
・開会挨拶　13 時 00 分
①　基調講演（30 分）　13 時 05 分～13 時 35 分
・岸　正之さん（損保ジャパン事務本部「ちきゅうくらぶ」）
演題「企業の環境保全活動～地域との協働をめざして～」
会場設営（５分）調整時間
②　シンポジウム（パネリスト参加４団体）１時間 20 分　13 時 40 分～15 時 00 分
・豊永ひとみさん（キラキラ西東京）
・中村賢司さん（西東京自然を見つめる会）
・宮﨑啓子さん（東大農場･演習林の存続を願う会）
・　末光正忠さん（Ｍｅｃ西東京）
・　岸　正之さん(コメンテーターとして)
・司会進行　西口徹（市民協働推進センター）
会場設営（５分）調整時間
③　その他団体による活動アピール　15 時 05 分～16 時１5 分
各団体持ち時間は 10 分間。７団体（７0 分間）
・ＮＰＯ法人 西東京花の会
・健康未来わいわいクラブ
・西東京菜の花エコ・プロジェクト
・ＮＰＯ法人 アジア植林友好協会
・ＮＰＯ法人 ボルネオオランウータン サバイバル ファウンデーション 日本
・東大農場・演習林を分断する都市計画道路　田無 3・4・7 を考える会
・ダンスサークル　M’S POWER ＆ K’S POWER
・閉会挨拶　16 時１5 分

３　展示参加団体
パネル展示のみの団体
・ＮＰＯ法人 西東京ＮＰＯ推進センター[セプロス]
・キッズタウンなちゅらるサロン

以上

ゆめこらぼ宛

団体名　MeC西東京　(メック)

氏　名　　末　光　正　忠

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

都市のオアシス　　まちの里川－石神井川を清流に

パネリスト発言要旨

（一巡目・10分間厳守）

テーマ	要　旨
身近な川を見直す	私たちが住んでいる多摩地区には、36の中小河川がある。多くは洪水対策で三面コンクリート護岸で植物が生え難く、生き物も住み難い川であった。野川や石神井川の川底を土に戻し護岸も可能な範囲で石積みや土にして植物や昆虫、魚が生息できるよう環境に配慮し、住民が河川に親しめるように都が整備してきている。都市には山は無く、唯一ある自然は川である。
玉川上水の清流復活運動や各地の川の清掃活動に学ぶ	昭和59年8月野火止用水、61年8月玉川上水、平成元年3月千川上水にそれぞれ清流が復活した。全国の清流復活の先駆けとなった。甦る水100選ー隅田川(東京都）と大丸用水(稲城市）、処理水の送水等による水環境を保全し又は回復させた都城南三河川（渋谷川・目黒川・呑川）、緑や魚とともに、 周辺地域に「うるおい」や「やすらぎ」を与えている。また、本事業は全国の清流復活の先駆けとなり、今日の処理水利用に貢献した事業である。
西東京にホタルを 石神井川を清流に みんなで一緒に川そうじ	東伏見に住む古老の話。「昭和4年頃石神井川の川幅は，3～5mくらいで子どもの膝ぐらいの深さであった。水はきれいで水量は多くなくトンボやホタルが飛び交い、タニシもいた。東伏見を流れる一帯は葦が生い茂る沼地で湧水がポコポコと湧き出ていた。」－自然河川に戻った川をみんなで大切にしていくこと。子どもや孫に貴重な川をきれいにして残すことの大切さ。

追加したいコメント

（二巡目・5分間厳守）

テーマ	要　旨
ありがとう地球	今年の夏は、7年の歳月をかけ60億kmの宇宙の旅をして無事帰還してきた 「はやぶさ」に日本のみならず世界の多くの人々が、驚嘆した。実物展示を見て感動のあまり泣いている子どももいた。このニュースを聞いて、Think Globally Act Locally ではなく、もはやThink Cosmic　Act　Globally（考え方は宇宙的で、行動は地球規模で）の時代。その原点は、感謝、祈り、願い、想いそして一歩づつの行動。

以上

ゆめこらぼ宛

団体名　東大農場・演習林の存続を願う会

氏　名　宮崎　啓子

第2回市民シンポジウム

～環境に配慮したまちづくり～

パネリスト発言要旨

（一巡目・10分間厳守）

「まちの里山」東大農場・演習林をまちづくりにどう生かすか。市民はどうかかわるのか。

テーマ	要　旨
東大農場・演習林と環境に配慮したまちづくり	西東京市の様々な行政計画の中でも”みどりの核”と謳われている農場･演習林。自然環境のみならず、教育･歴史･福祉･防災･文化全般の拠点となり得る可能性を持つ地域資源農場･演習林をまちづくりにどう生かすか、市民がどうかかわるか。
地域の環境学習、市民活動の核、農場･演習林	2007年、46、000を超える農場移転反対署名は、"みどり"が市民活動の核となり得ることを証明した。将来のみどりのまちづくりを背負って立つ子どもたちに自然と人間の共生意識を育てる環境学習の場として、西東京市で育つ子ども達に農場･演習林の四季を体験させ、生物の多様性を視点にまちづくりを考えられる人材を育成する。
農場･演習林のエコミュージアムとしての価値	エコミュージアムとは「地域社会の人々、その自然環境･社会環境の発展課題を史的に探求し、自然･文化資産を現地で保存し、育成し、展示することを通して地域社会の発展に寄与することを目的とする博物館」、青梅街道、古い養蚕農家、庄屋宅、ひえぐら等を一体としたまちづくり 過去に目を向け、地域の伝統・歴史文化・自然環境を徹底してみがきこむまちづくりの提案。

追加したいコメント

（二巡目・5分間厳守）

テーマ	要　旨
都市と農業が共生するまちづくり	市の地目別土地面積の１２．５％は農地。農地の緑地に占める割合は４５％。みどりのまちづくりには、農地、農業の保全が不可欠。都の支援策活用による「西東京市、都市と農業が共生するまちづくり委員会」がH.22～２５を目途に実施計画の策定及び、又その実施を目指している。農とみどりのネットワークを提案する。

以上

ゆめこらぼ宛

団体名　西東京　自然を見つめる会

氏　名　中村　賢司

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

パネリスト発言要旨

（一巡目・10分間厳守）

テーマ	要　旨
西東京市のみどり	西東京市のみどりは多いか少ないか。緑被率で見ると現時点でも26.0％と決して多い数字でない。しかも前回調査の16年前から18.2％も減少している。これは西東京市のみどりは畑、屋敷林などが多く、今後も減少が続く由々しい問題である。
公園はどうであろうか	みどりを今後とも無くさないための最後の砦とも言える公園を見てみる。市立およびその他の公園や、それに類するものを合計すると約270箇所と数は多いが、小規模のものが多く、市民ひとりあたりの公園面積は1.9㎡と東京都都市部平均の5.3㎡に比べ著しく狭い。
何をすべきか	みどりの量と質を高めるためには何をすべきか。①公園の質を高める…緑の少ない公園に緑の植栽を進める。②屋敷林の喪失を食い止める。…市のみならず都、国の協力を得て屋敷林の存続策を講ずる。（市としてみどりの基金を設定することも考慮）

追加したいコメント

（二巡目・5分間厳守）

テーマ	要　旨
市民はどう動くか	市民のみどり・公園に関する関心は大変高い。緑の基金募集活動への参加、公園の協力員への参加などを勧める体制作りを行う。

以上

ゆめこらぼ宛

団体名　エクラアニマル

氏　名　豊永　ひとみ

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

パネリスト発言要旨

（一巡目・10分間厳守）

テーマ	要　旨
市民が倖せを感じるまち	自然の環境と心の環境が豊かであれば、市民は倖せを感じるのでは？
エクラアニマルがやりたいこと（行動していること）	・ペットボトルのエコキャップ回収（800個約2Kでポリオのワクチン1人分） ・NPO MAKE THE HEVENの植林の募金に協力 ・月１回の地域のゴミひろい（１年以上継続） ・献血の呼びかけ、着ぐるみでお手伝い
	・保育園・幼稚園他、無料出張上映会（全国） ・未来の子供たちの為の自主製作アニメを作る（自然環境をテーマにしたもの） ・西東京を笑顔のまちにするため、各種イベント参加 ・様々な情報発信の核になるよう人と人をつなげたい

追加したいコメント

（二巡目・5分間厳守）

テーマ	要　旨
市民がどうやって１つにつながるか	身近であって、誰でもができるアクション（たとえばごみひろい等で）市民が共感しあえれば・・・。

以上

ゆめこらぼ宛

団体名　　西東京花の会

氏　名　　中谷　玲子

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

活動アピール発言要旨

（10分間厳守）

テーマ	要　旨
花いっぱい運動	「市民の手で公園に花を植えたい」との声から「花いっぱい運動」を発展させ、西東京市と協働で、公園の花壇を、花の選定から植え付け、管理まで行っています。現在では３５ヶ所の花壇を１００名以上の会員で植栽するまでになりました。栄町に育苗ハウスも作り、春には春の花を、夏には夏の花を育苗しています。また、良い花を咲かせる為の土作りから手がけています。秋に公園の落葉を集めておき、腐葉土を作るのです。この夏の猛暑にもめげず、８月初めにはパンジーの種を蒔きました。（４８００粒）１１月の花が楽しみです。ご一緒に活動をしてみたい方、気軽に声をかけて下さい。

（政策提言などもご記入いただいて結構です）

貴団体を司会が紹介するためのコメント（100字以内）

発表者名	**西東京花の会　理事　　中谷玲子**
コメント	**西東京市を花の町にしたいとがんばっています。**

ゆめこらぼ宛

団体名　健康未来わいわいクラブ

氏　名　二宮　嘉延

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

活動アピール発言要旨

（10分間厳守）

テーマ	要　旨
さくら並木道路のみちづくり	
アジサイ道路のみちづくり	
東大農場を中心とした、市内ミニ公園を（約150）を一本化	市内「赤道」（あかみち）で繋ぐ。 万葉集に詠まれた草花を植え、万葉の花公園とした”まちづくり”、文学散歩。 ミニ公園のガーデニングは、地球温暖化対策に貢献。
ガーデニング	季節の草花の種を蒔き、育てます。 一年中花を楽しめる、花いっぱいのみちづくり 五日市街道入口から小金井公園入口（小平市境）までのガーデニング

（政策提言などもご記入いただいて結構です）

貴団体を司会が紹介するためのコメント（100字以内）

発表者名	
コメント	

ゆめこらぼ宛

西東京 菜の花エコ・プロジェクト

氏　名　　茂木千佳子

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

活動アピール発言要旨

（10分間厳守）

テーマ	要　旨
１．菜の花は、環境を守る新エネルギー！	菜の花やひまわり等の油糧作物がディーゼル車の燃料になる。BDF(バイオディーゼル燃料）という。実際にヨーロッパのＥＵ諸国のドイツ、フランス、イギリスなどでは食料自給率とあわせた農業政策として菜の花やひまわりを栽培し、車の燃料としての利用が当たり前になっている。二酸化炭素を増やさない環境政策として石油系のガソリンより税金も優遇されている。本来菜種油は食用油としてのみではなく、江戸時代では灯りとして利用された通りエネルギーとしての役割も持つ。
２．西東京 菜の花エコ・プロジェクトの歴史	「一面に広がる菜の花は、人々の心を癒し、春の食卓を彩り、菜種油は調理用に、その絞りかすは肥料や飼料となり、廃食油は石けんや二酸化炭素を増やさない燃料として再利用できます。21世紀は、持続可能な地球環境を目指し、資源循環型まちづくりを実行に移していくときです。」発足に当たり7年前に作った私たちの主旨です。15年前に滋賀県で誕生した菜の花プロジェクトも現在では47つ道府県160団体です。私たち西東京菜の花エコも現在では、子供たちへの環境学習や西東京市とゆめこらぼのひまわり事業に参加するなど徐々にその意義が評価をされてきているところ。
３．私たちの暮らしはこのままで安全なのだろうか？	多くの人が、雷などで突然に停電になった!天候不順で食べるものが無い、高くて買えない。などと暮らしの中で恐怖を感じたことがあるが、のど元を過ぎればまた忘れてしまう。また使い捨ての生活に戻ってしまう。西東京市が回収している市民の廃食油はもう一度精製すれば二酸化炭素を増やさないディーゼル車の燃料になる。トラックやバス、農耕車などの馬力が必要な車はディーゼル車で今でも欠かせない車。地域の燃料は地域の再利用で賄う事が出来ると、もっと安心、安全な生活が出来るはず。

（政策提言などもご記入いただいて結構です）

貴団体を司会が紹介するためのコメント（100字以内）

発表者名	**茂木千佳子**
コメント	**石油が発見され僅か2世紀、人は簡単便利な生活と引き換えに環境を回復する努力を忘れ汚染してきました。二酸化炭素を増やさない環境を作るのは、私たち生活者です。次世代へ安心できる食とエネルギーを残しましょう。**

ゆめこらぼ宛

団体名　ＮＰＯ アジア植林友好協会

氏　名　横田　高男

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～
活動アピール発言要旨

（10分間厳守）

テーマ	要　旨
団体紹介	アジア地域で植林活動を行う事でアジアの熱帯雨林の再生に寄与すること、また、植林活動を通じてアジア地域の人々の民生向上（自立支援）に協力していくことを目的に2002年に設立した団体。インドネシアのカリマンタン島とバリ島で植林活動を行っている。植林体験ツアーの企画の他、国内での寄付金募集、イベント出展や講演会の開催による啓蒙活動を行っている。
バリ島植林プロジェクト紹介	植林活動を行っているバリ島は、観光地で緑ゆたかなイメージがあるが、実は森林減少が激しく、危機的な状況。これを危惧し、バリ州政府は「2010年緑のバリ」プロジェクトを立ち上げ、協力を呼び掛けている。当会もバリ州政府から要請を受け、植林プロジェクトを2007よりスタート。水源涵養林の再生を目的とし、200万本の植林を目標に現地の郷土樹種を植林している。
9月4日講演会および第2回植林祭の告知	国内の活動としては、9月4日（土）に「畜産・肉食と環境破壊」と題し、コール田無で講演会を開催する。多くの方に参加頂き、食卓から地球環境を考えるきっかけにして欲しい。 また、今年の12月2日（木）に第2回植林祭をバリ島で開催する。現地集合で参加できるほか、植林祭に参加できる植林体験ツアーも企画しているので、地球に感謝の植林を自身の手で経験して頂きたい。

（政策提言などもご記入いただいて結構です）

貴団体を司会が紹介するためのコメント（100字以内）

発表者名	**横田　高男**
コメント	**熱帯雨林の再生と民生向上を目的にインドネシアで植林活動を行っている団体です。2002年に設立し、植林プロジェクト推進のほか、植林体験ツアーの企画、イベント出展や講演会による啓蒙活動を行っています。**

ゆめこらぼ宛

団体名ボルネオ　オランウータン　サバイバル　ファンデーション日本

氏　名　福﨑結子

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

活動アピール発言要旨

（10分間厳守）

テーマ	要　旨
団体紹介	オランウータンの生息地であるインドネシアの森林保護・再生のためオランウータンの現状を広く知らしめると同時に、森林におけるオランウータンの役割・重要性（オランウータンは植物の種子を蒔く役割があり、森林復興・発展に欠かす事ができません）を普及させ自然の中にオランウータンを戻すこと、彼らの生息地を保護すること、そしてオランウータン保護に関する事業を行うことで環境の保全に寄与すること。
トラスト寄付ご案内	熱帯雨林の天然林を100年先まで保護できる権利を、ＢＯＳ本部傘下の会社がインドネシア政府より獲得しました。その権利を執行するために１坪１円で天然林を保護できる募金を始めました。今夏ポンゴ・サポーター会員を新設し一部を寄付金に回すようにします。また、その他に「葉っぱシールで森づくり」のポスターを始めました。これは、1000枚の葉っぱシールを貼り終えると、5000坪の熱帯雨林を保護することができます。
ＢＯＳ財団来日のご案内	９月20日～25日までＢＯＳ財団の理事長らが熱帯雨林の現状を普及するために来日します。多くの方に森林におけるオランウータンの危機的状況を知って頂くために、来日中はシンポジウムや講演会を開催致します。現地の生の声を聞いて頂きたいと思います。

（政策提言などもご記入いただいて結構です）

貴団体を司会が紹介するためのコメント（100字以内）

発表者名	福崎結子
コメント	オランウータンの生息地であるインドネシアの森林保護･再生のため オランウータンの現状を広く知らしめると同時に、森林におけるオランウータンの役割･重要性を普及させ自然の中にオランウータンを戻すことを目的として活動しています。

ゆめこらぼ御中　　２０１０．８．２８

団体名　東大農場・演習林を分断する
都市計画道路・田無３・４・７を考える会
代　表　藤　川　利　子

テ　ー　マ	要　　旨

会の成り立ち

○　東大農場・演習林を分断する田無３・４・７号線（Ｈ７年）が、東京都の第２次整備計画に入り演習林の前まで整備されることに危機感を持ち、「田無の自然を見つめる会」の活動団体一つとして発足し『豊かな東大農場・演習林の生態系と住環境を守ろう』と１５年の活動になります。を東京都と東大本部経営協議会等に道路の見直しを働きかけを続けております。

このまちの宝物　オオタカの営巣

○　東大農場の移転問題がありましたが、幸いにも多くの皆さんのお力でこのまちの宝物は移転せず残ることになりました。
ところが２００８年の東大の新しいキャンパス計画では、西東京３・４・９号線を通すことを前提に、研究設備が配置され、自然地およそ４ｈａが売却もありうるとのことで、私たちは、大きく自然環境・景観を変えてしまうのではとないかと心配しています。

東大農場キャンパス計画の進捗

東京都は、昨年西東京２月西東京３・４・９号線の事業説明会を開き、この３月測量を終えています。昨年、オオタカが営巣３羽のヒナが育ちました。今年も何度か営巣を試みている姿が最近も確認されています。

東大のキャンパス計画は、東京都の緑地保全の条例（４７条）をまだクリアしておらず、自然環境審議会にかかる開発計画です。現在東大はオオタカを含め自然環境調査を行っていると聞きます。一方、道路の建設は、今年は予算０で自然環境調査待ちのようで、取り敢えずストップしております。

どうしても道路は必要でしょうか

○　オオタカのような絶滅危惧生物が住むような環境は、私たち市民にとっても何物にも変えがたい大切なまちの里山です。一度、道路をつけてしまったら、コンクリートにしてしまえば元に戻ることはできません。希少生物もいなくなってしまいます。　車中心の社会が見直されつつあり、所沢街道の走行量も減少傾向の今こそ、もう一度、緑と農地を次の世代に残す方法が無いのか考えて見ましょう。

考えてみましょう！　道路にしてしまえば戻れません。

＊　「東大農場・演習林」を横断する都市計画道路「西東京３・４・９号線」が作られるとオオタカはこのような場所には住めないと、きっとどこかに去ってしまうでしょう。

マヤランはじめ多様な生物(植物約１０００種､動物約５００種類)の多くは消えてしまいます。

＊　「東大農場」の緑の恩恵は！

市民･都民、特に幼児、高齢者の憩いの場、やすらぎの場

西東京市のＣＯ２吸収源、そしてヒートアイランドをやわらげる役割。

車の排気ガスなどによる大気汚染の緩和と、ぜん息の抑制など市民の健康に寄与。

そして災害時には私たちの大切な緊急避難場所です。

＊　『コンクリートから人へ』と変わり始めた今、子供たちに残すのは、どちらが良いでしょうか？

新たな農場キャンパス計画は、まだこれから**東京都の環境審議会**にかかる案件で東大は今、　オオタカ調査と併せて環境調査中です。　　道路の建設も、調査結果を待って環境局と建設局が協議しなければ出来ません。これらの計画にはぜひ市民の意見を反映させましょう！

＊　一度コンクリートで覆ってしまったら、土に戻すことは大変です。

火山灰を黒い豊かな農地にするには、１００年の年月がかかるそうです。

市民の皆さん　このまちの宝物そのまま出来るだけ壊さず次世代に残しましょう！

コ　メ　ン　ト

発表者名　　藤　川　利　子

東大農場・演習林の豊かな生態系と住環境を守るために、そこを分断する「都市計画道路田無３・４・７を考える会」を立ち上げ 15 年前から活動しております。

オオタカの住む豊かな環境は、このまちの宝物　まちづくりに活かしたいです。

ゆめこらぼ宛

団体名ダンスサークル「Ｍ’ｓＰＯＷＥＲ＆Ｋ’ｓＰＯＷＥＲ」

氏　名　三木美奈子（主宰者）

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～

活動アピール発言要旨

（１０分間厳守）

テーマ	要　旨
団体紹介	幼児から小学生、中学生、お母さんまで活動しているダンスサークル「Ｍ’ｓＰＯＷＥＲ＆Ｋ’ｓＰＯＷＥＲ」です。西東京市を拠点として、年に２０ほどイベントやお祭り、文化祭などに出演しています。近年、ボランティア活動にも積極的に参加し、９月４日にも「エコプラザ西東京」で行われる環境イベント「キャンドルナイト」にも出演します。
「エコダンス」について	平成２０年７月に環境学習の拠点となる「エコプラザ西東京」がオープンし環境問題に取り組む様々な登録団体やボランティアの協力員の方々が活躍されています。私たちのサークルからも、「エコプラザ西東京協力員」として、昨年から、不用品を利用した手作り講座の講師もしています。事業のひとつとして「エコダンスを踊りましょう」を提案し、ゴミ減量や資源の再利用など環境意識の向上や仲間づくりを目的としています。
「エコダンス」の発表	「エコダンス」を数名で発表します。 不用になったペットボトルを楽器にして、自宅にある古着を素材にして衣装とし、ダンス曲は一般の方々が親しみやすい日本のヒット曲を使い、幼児から年配の方々まで、安全に楽しめるダンスです。

（政策提言などもご記入いただいて結構です）

貴団体を司会が紹介するためのコメント（１００字以内）

発表者名	**鈴木理恵、山根峰代**
コメント	**西東京市を拠点としている。幼児からお母さんまで活動しているダンスサークル「M’sPOWER＆K’sPOWER」です。年に20程、市内外のイベント、祭り、文化祭などへ出演、ボランティア活動へも積極的に参加しています。**

第2回市民シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～
主催：西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ
キラキラ西東京
豊永ひとみ さん
MeC西東京
末光 正忠 さん
中村 敏雄 さん

無料!
ATSA
第2回 環境シンポジウム
～環境に配慮したまちづくり～
周年
ショッピングプラザ
ASTA
LIVIN
『世界平和の森づくり』